



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オヘ期日		オヘスタート		イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足						
4/11 (月)	+ 800	▲ 7,800	▲ 7,000	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M)	国債補完供給 + 1,600	国債買入 + 14,800			日: 日銀支店長会議、黒田総裁あいさつ 日銀地域経済報告 (さくらレポート、4月)
4/12 (火)	+ 1,000	+ 2,000	+ 3,000						米: CPI (3月)
4/13 (水)	トン	▲ 32,000	▲ 32,000	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M)	共通担保オペ ▲ 5,100	CP等買入 + 4,000			日: 黒田日銀総裁あいさつ (第97回信託大会) 米: PPI (3月)
4/14 (木)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000						米: 新規失業保険申請件数 (9日終了週) 欧: ECB政策金利発表、総裁記者会見
4/15 (金)	トン	+ 60,000	+ 60,000	国債発行 (20Y) 年金定時払い					米: 鉱工業生産 (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初税揚げの影響で、先週末対比1兆8,900億円減少の558兆7,600億円から始まった。その後、5日は国債買入オペにより同残高は560兆4,400億円まで増加したが、6日は国債の発行によって559兆100億円まで減少した。週末8日は、大きな変動要因はなく559兆7,900億円(速報)で越週した。

週初無担保コールON物加重平均金利は、地銀業態の調達ニーズが引き続き強く△0.004%からスタートした。その後一部調達サイドのニーズの減退が見られたが、同金利は△0.006%~△0.005%で推移していった。週末も地合いに大きな動きはなく△0.006%で越週した。

ターム物では1W~1M物を中心に主に△0.005%~△0.001%の水準で出合いが見られた。

来週的主要な予定は、国内では11日に日銀支店長会議・黒田総裁あいさつや日銀地域経済報告 (さくらレポート) の公表などがあり、海外では12日に米CPIの公表や14日にECB政策金利の発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.050 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.09%近辺の出合いで始まったが、以降徐々にレートは低下し、△0.11%~△0.10%で推移した。短国3Mの入札が行われた11日受渡しの取引では後場に△0.20%まで低下した。SC取引は2年413~435回債、5年139~150回債、10年333~366回債、20年164~179回債、30年66~73回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.010 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,200億円で、週間償還額 (約1,200億円) を上回った。発行市場は、期明けの復活発行により鉄鋼や卸売等の一部業態で期明けの大型発行が見られ、発行超となった。発行残高は先週末の21兆3,276億円から4月7日時点で22兆2,939億円に増加した。発行レートは、コロナオペ担保目的の引受需要がやや後退したことから、浅いマイナス~0%近辺の狭いレンジでの出合いであった。

来週の週間償還額は、約4,700億円となっている。発行市場は、5・10日発行が続くことから発行超を予想する。発行レートは0%近辺での出合いを予想する。

<TDB>

4月7日の6M1071回債の入札は、最高落札利回り△0.0956% (前回債△0.0769%)、平均落札利回り△0.0979% (前回債△0.0769%) となった。8日の3M1072回債の入札は、最高落札利回り△0.1179% (前回債△0.0930%)、平均落札利回り△0.1223% (前回債△0.0979%) となった。来週は4月15日に3M